



# 第4回 日本光合成学会年会

日時 2013年5月31日(金) 13時～6月1日(土) 15時30分  
会場 名古屋大学 野依記念学術交流館 2F カンファレンスホール  
参加費 一般 2000円、学生 500円

参加申し込み、ならびにポスター・口頭発表申し込み方法は、  
日本光合成学会ホームページ (<http://photosyn.jp/event.html>) をご覧下さい

## 公開シンポジウム 「30年後の光合成研究」

### ・5月31日(金)

"too famous but too unknown" を打破するために必要なことは何か？

岩井優和 (理化学研究所・ライブセル分子イメージング研究チーム、JST・さきがけ)

基礎的な分子化学で光合成を語れるようになる日

石北 央 (京都大学生命科学系キャリアパス形成ユニット)

予測とデザインをはじめよう。野外におけるトランスクリプトームのモデリングから

永野 惇 (京都大学生態学研究センター、JST・さきがけ)

人工光合成への期待

民秋 均 (立命館大学大学院生命科学研究科)

### ・6月1日(土)

光合成生物の生き様の理解とそれに基づく合目的的な改変・制御の展望

成川 礼 (東京大学大学院総合文化研究科、JST・さきがけ)

作物の光合成能力の改善は可能か？これからの挑戦

牧野 周 (東北大学大学院農学研究科)

フラスコの中から光合成研究の未来をみる

佐藤文彦 (京都大学大学院生命科学研究科)

過去30年間の光化学系複合体の研究から30年後の研究展開を読む

高橋裕一郎 (岡山大学大学院自然科学研究科)

オーガナイザー：田中歩 (北海道大学低温科学研究所)、鹿内利治 (京都大学大学院理学研究科)、佐藤直樹 (東京大学大学院総合文化研究科)